

かたつむり通信 37 号



子どもの権利ワークショップ

代表理事 谷山 啓太

ついに品川区で子どもの権利条例が制定されることになりました。「子どもの権利が尊重される地域の実現を目指す」を活動方針としてきた私たちにとっての悲願でもあります。

品川区の方でとても情熱をもって条例制定の準備が進められていると感じていますが、これまで長年「子どもの権利」を大切に子どもの声に耳を傾ける活動を続け、学校などに出向いて子どもたちに「子どもの権利」を伝えてきた私たちとしても、自分の持ち場でできることをしていこうと考え、私たちは子どもたちと「子どもの権利ワークショップ」を行うことにしました。条例の制定に際して、そのプロセスにおいて、また出来上がる内容において、多くの子どもの声を聴いていくことが必要だと思います。しかし子どもの声を聴く場を設けると、学校からの推薦だったり、意識の高い子だったり、「聴かれ慣れてる」子どもが集まる傾向があります。もちろんその子たちの声も大切な声ですが、私たちはなるべく「ふだん聴かれる機会の少ない」子どもにライトを当てたいと考えました。今後、学校に行っていない子どもが集まる場所などに出かけていきたいと思います。

先日、初めてのワークショップを区内の塾で実施することができました。対象は中学生 6 人。「子どもの権利 なんでもやねん!すごろく」で遊び、子どもの権利への理解を深めました。その後「自分のなんでもやねん! (権利が守られてないな、と思うモヤモヤ)」を出し合い、みんなで解決策を考えました。参加した子どもたちからは「固い感じかと思ったけど自由で楽しかった」「すごろくは遊んで学べてわかりやすい」「条約の内容が知れてためになった」「なんで勉強しないといけないのかなと思ってたけど、今回のでモヤモヤが少し解決した」などの感想をもらいました。



定期総会を開催しました(2026 年 5 月 23 日)

5 月 23 日にしながわチャイルドラインの定期総会を開催しました。引き続き、子どもの声を聴く活動を通じて「子どもの権利が尊重される地域の実現を目指す」ことが確認されました。

理事の変更:

松澤麗子さんが任期満了により退任。新たに遠藤芙美子さんを理事にお迎えしました。遠藤さんは品川区更生保護女性会の会長を務められています。

24 期受け手フォローアップ研修&デビュー報告(2026 年 1 月~3 月)

受け手養成研修を修了しても、すぐに受け手になるわけではありません。子どもと向き合う現場により近いところ

で、傾聴ワークショップ、ロールプレイ等の準備を重ね、不安の共有を行いました。

フォローアップ研修や見学を終え、3月から15名のメンバーが受け手デビューしてくれました!以下、24期生のデビュー報告です♪



みんな価値ある存在。これからの未来を担う子どもの笑顔をつくりたい。と思い参加しました。私の新たなわくわく、たのしみになっています。(Nさん)



自分も学生時代に辛かった時期があったため、苦しんでいる子どもたちに寄り添いたいと思いチャイルドラインの活動への参加を決めました。実際に電話に出てみると、想像を超える深い悩みを抱えた子がほとんどで、これまで一人で抱えて大変だっただろうと胸が痛むことが多くあり

ます。どう聴いたら良いかわからない時も多いですが、他の受け手の方のアドバイスをもとに試行錯誤しています。もっとこどもの声に寄り添えるようにこれからも精一杯取り組んでいきたいです。(Sさん)



シフトでかけ手を励ましている時、拙いながらも聴く努力をしている自分のことをも自分で励ましている様な気がします。また、かけ手から信頼されていると感じる時、それはチャイルドラインという組織が信頼されている、と会員として誇らしさと責任を感じています。学びと社会貢献の機会をいただけていることへの感謝の気持ちを大切に、活動していきます。(Kさん)

ステップアップ研修(2026年2月~3月)

私たちの活動は子どもの声を聴くことですが、メンバーは専門家というわけではありません。私たちは毎月のように研修を行って、子どもへの理解を深め、聴くことのスキルを磨いています。ステップアップ研修は、自分の聴き方をステップアップすべく年に一度実施しているものです。今年は「基本の徹底」「自己覚知」を目的としたロールプレイ演

習を行いました。私たちは日ごろ、ここまでやるのか!というくらい研修を重ねています。これは高いハードルを越えて来てくれた子どもたちを傷つけたり、がっかりさせたりしないために必要なことだと考えています。



継続研修(受けた電話を話してみよう)(2026年4月21日)

私たちは守秘義務を負っており、受けた電話の内容を外部に漏らすことはありません。しかし電話によっては、受けた側も大きく心が揺れてしまうことがあり、そんなとき仲間同士で支え合う仕組みを持っています。この日はデビュ



ーしたばかりの24期のメンバーを中心に、お互いに気持ちを話す会になりました。

小澤先生最終講義(2026年4月25日)

しなチャイの理事である小澤康司先生の最終講義が立正大学で1月に行われ、「しなチャイ版」としてもう一度メンバーに向けてお話ししてもらいました。



小澤先生は、これまで自分のことを語ってこなかったと言います。このときはこれまでの人生、取り組んで

こられたお仕事について惜しみなく話してくださいました。

この小澤先生の人生の語りの中には、人を信じ、人に対する優しさが溢れていました。

120分の講義は「やすじくん」の願い「変化する世界の中で、／誰もが、自己価値を承認し、／信頼と自由を手、／自覚的に、主体的に、／納得のゆく人生を歩むことを支援し、／調和のある平和な社会をきずく」で終わりました。

これからもまだまだ小澤先生には私達の活動とおつきあいいただき、私たちの、そして子どもたちの人生のよきパートナーであっていただきたいと思います。

宿泊研修(2026年6月27~28日)

台風が近づく中、宿泊研修を行いました。

1日目の午前最初の研修は「あらためて、子どもたちは何を求めてチャイルドラインに来るのか?」考えました。

実際の受け手事例をもとに、子どもの気持ちや子どもが本当に求めていることについて、2~3人のグループで考えました。子どもが大切に扱われていない現実には胸が痛む事例もあり、自分が受け手だったらどのように寄り添えるだろうかと考える機会になりました。

また、多くの子どもたちがAIを利用している現状について、実際の相談事例を使い比較をしました。子どもの話を聴いて気持ちに寄り添い、一緒に考えることは、人だからこそできる大切な役割なのだと改めて実感しました。

1日目の午後は「他の人の聴き方から学ぼう~ロールプレイを中心に」を行いました。

「フィールドロールプレイング」という方法を用いながら、ロールプレイを皆で見る、聴くというワークを行いました。一対一のロールプレイと観察では「こうしたほうが良い」という形の振り返りにいきがちですが...どんなふう感じたかをシェアして、同じロールプレイ、同じ電話でも感じることに、注目するポイントがそれぞれ異なるんだなあと気づきもありました。多くの言葉でまとめようとすると、どうしても頭で考えていってしまうけど、「感じたことを一言であらわす!」形も新鮮でした。



1日目は「対話の会 ~居心地よく~」を行いました。

アイスブレイクで子どもの頃に好きだった本を一人ずつ紹介し、その後、参加者全員がテーマについて話しまし

た。

- ・ しなチャイに参加した理由
- ・ 参加してよかったと感じること
- ・ 逆に困ったと感じたこと(あれば)
- ・ しなチャイが今後どのような場であってほしいか

それぞれの経験や背景、大切にしていること、活動に参加する中で感じていることなどを聞き、普段の活動だけでは知ることのできない参加者の皆さんの人柄や思いに触れることができ、参加者同士の対話も深まる、有意義な時間となりました。時間を気にせず、このような時間を持てるのも宿泊研修ならではの良さです😊

2日目は小澤康司先生の「ナラティブ・アプローチ」

ナラティブ「物語」。人は出来事を過去から現在へと物語として捉え、自分自身の「自己物語」をつくりながら生きている。「ディスコース」という、社会の中で当たり前になっている思考の枠組みや暗黙のルールについて、その枠組みが、自分自身の物語にも影響を与えていること、そして自己物語を再構成することは、ディスコースを書き換えることにもなる。

自分自身の物語と向き合うことで、相手の物語を大切に聴き続けるための土台になるように感じています。



「#学校ムリでもここあるよ」キャンペーン(2026年8月20日)

学校がムリな子どもたちに第三の居場所や相談窓口を周知する「#学校ムリでもここあるよ」キャンペーンのオープニングイベントに代表の谷山が登壇しました。チャイルドラインがどのようにして子どもたちの気持ちを受け止める心の居場所になっているかお話ししました。



今の子どもたちの多くは毎日のようにAIに相談しています。子どもたちは、人に相談するよりAI

の方が圧倒的にハードルが低いと言います。AIに相談すると一瞬で大量のアドバイスを繰り出してきます。それに対してチャイルドラインは問題解決の主体は子どもだと考え、答えはすでに子どもたち自身の中にあると信じて、子ども自身がそれを整理し、言語化するプロセスに寄り添う活動です。いわばAIとは真逆の活動だと思っています。来てくれた子どもに「AIと違って対話してる感じがした」と言われたときは、気持ちのやり取りができた気がして嬉しかったです。

チャイルドライン夏のキャンペーン(2026年8月22日～9月4日)

子どもたちの自殺が過去最悪を更新しています。特に夏休みが終わるときに死を選ぶ子どもが多いことから、夏休み明け前後にキャンペーンとして、いつもよりも開設時間を長くして対応にあ



たりました。しなチャイでも期間中に5回、終了時刻を22時まで延長して対応しました。「あと4日で学校が始まっちゃうのが本当に怖い」などの電話がありました。

25期受け手・サポーター養成研修(2026年10月6日～12月15日予定)

しなチャイの受け手・サポーター養成研修を今年も開催します。ついに25期!四半世紀になりました!今年も充実の講座で、新しい仲間をお待ちしています。

養成研修の中の一コマを公開講座として開催します。ぜひお申し込みください。

「学校の息苦しさはどこからくるのか?～自分が自分でいられない苦しさ～」

「子どもファーストな学校づくり」を目指す西郷孝彦さんに、今の学校はどのように映っているのか?子どもたちを苦しめているものは何なのか?をお話いただきます。

日時:10月20日(火)19時～21時

場所:立正大学品川キャンパス13号館

参加費:一般1,000円 学生500円

会場参加:当日受付でお支払いください

オンライン参加:申し込み時にお支払いください

講師 西郷 孝彦 氏

元世田谷区立桜丘中学校校長(神奈川県真鶴町教育委員)2010年度より10年間、世田谷区立桜丘中学校長として校則をなくすなどの改革を行う。著書に『校則なくした中学校 たったひとつの校長ルール』『過干渉をやめたら子どもは伸びる』(共著)近著に『無垢の祈り ～僕の出会った子どもたち～』

お申し込みはこちら

会場参加の方

オンライン参加の方



ご支援ありがとうございます(集計期間:2026/1/1～2026/6/30)

寄付金・賛助会費・助成金の総額:138,000円

ご支援いただいた個人:11名

しなチャイの運営は正会員の会費、賛助会員さまの会費、寄付金、助成金によって成り立っています。会費、ご寄付の用途は、子どもたちに配布するカード作成費(1枚0.7円)、公開講座の開催費などです。

【賛助会員】年会費「1口2,000円」から何口でも

銀行名:ゆうちょ銀行

口座名義人:トクヒ)シナガワチャイルドライン

記号:00160-5/番号:664278

※ゆうちょ銀行以外からお振込みいただく場合

支店名:〇一九(ゼロイチキュウ)

預金種別:当座預金/口座番号:0664278

発行: 特定非営利活動法人 しながわチャイルドライン

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-23-24 コーポ柴田 203

Tel. / Fax. 03-5462-2868

発行月:2026年9月

ホームページ

Facebook

